

ふれあい



上/北久保橋から見る中央自動車道 中/山腹を縫うように続く矢坪坂
下/昔の姿をとどめる恋塚一里塚



fureai_13

がら木漏れ日のさす道を進むと、並行に走る県道を直下に望み、下から風が吹き上げてくる場所に出る。現在ではネットフェンスが設置され、路肩もしっかりしているが、ここが甲州街道であったころは、難所であったことがうかがえる。しばらく行くと、新田の集落を抜け、再び県道と合流する。

天保郡内一揆の首謀者の一人である兵助は、揆を起した後、逃亡生活を経て、晩年はこの地に戻り没したと言われている。犬目宿は、昭和四五年の大火で大半が焼失してしまったため、宿場町の面影を遺すものは少ないが、その静かなたたずまいに当時の雰囲気を感じることが出来る。

大目の宿を過ぎると、下りから上りに変わる辺りで道は県道と分かれ、右手へ上っていく。木立の道となり、街道風情のなかをしばらく歩くと突然視界が開け、笹子川を挟んだ山並みの向こうに富士山が姿を現す。葛飾北斎が描いた富士三十六景の一つ「大目峠の富士」はこの付近からのものとも言われている。これには諸説があつて判然としないが、ここからの眺望は確かに素晴らしい。

道は再び県道と合流し、大月市へと入っていく。時折見える富士山を見やり30分ほど歩くと、国道20号と合流する。今日は初狩宿で疲れをとって、明日の笹子峠越えに備えよう。往時の旅人に想いを馳せながら、笹子の峰に暮れゆく夕日を眺めた。



山梨の旧道を訪ねて

一道一会

上野原市/甲州街道(野田尻宿・犬目宿)

江戸と信州・諏訪を結んでいた旧甲州街道。五街道のひとつで県内に宿は25。今回は、上野原市内にあった野田尻宿から犬目宿を通る旧道を歩いてみた。

橋を渡りきると砂利道となり、旧道の趣きを残す道は数分で現在の舗装された県道へと合流する。途中、江戸・日本橋から二十里を示す「荻野一里塚」を右に見てしばらく行くと、談合坂サービシアリア(上り線)手前に架かる矢坪橋で再び中央自動車道を越える。

道なりに進むと「矢坪坂の古戦場跡」の案内板が見えてくる。車道とわかれ、右手の急な坂道を上っていく。この辺りには、もはや古戦場の面影は感じられない。坂は山腹を縫うように次第に傾斜を増していくが、眼下を走る中央自動車道や遠くにひるがる丹沢の山並みが一望でき、坂を上ってきた疲れを忘れさせてくれる。次第に傾斜が緩やかになり、落ち葉を踏みしめる音を楽しみながら、



往時の面影をかすかに残す野田尻宿

12_fureai